

昔々、ピタゴラスという人がいました。

彼は、自然というものに興味を持っていました。

「この世界は、いったいどうなっているのだろう？」

彼は、旅に出ました。エジプト、インド、・・・。お釈迦様にも会っていたかも？

その先々で、いろいろな事を学びました。

そして、彼の長い旅も、終わる時が来ました。

彼は、サモスという島で、その後クロトンで、自分の考えを人々に伝えました。

まだ彼は、この宇宙の全てを知ったとは思っていなかったのに、

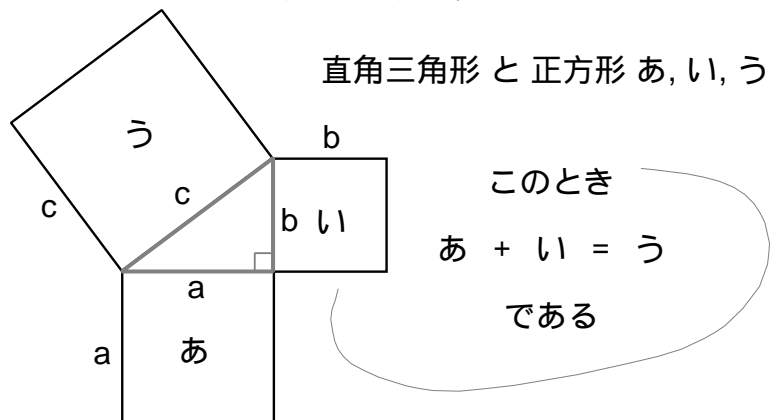
仲間たちと共に、さらなる真理の探究をしました。

たくさんの発見が、あったのでしょね。

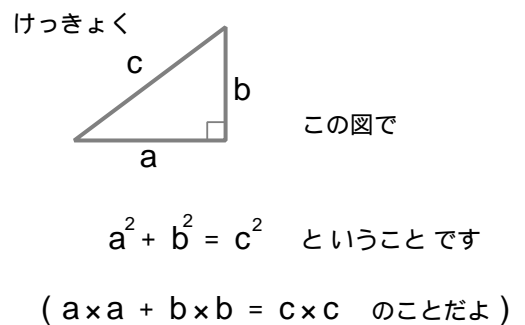
彼らの発見した真理の1つは、現在『ピタゴラスの定理』と呼ばれています。

これは、平面幾何学(図形のことです)の分野では、とても美しい真理です。

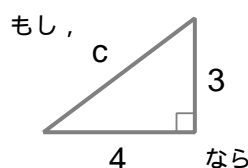
ピタゴラスの定理



さんへいほうのていり
三平方の定理ともいうよ



ピタゴラス : Pythagoras
(前 582 ~ 前 497)
「ピュタゴラス」と表記
されることもあります。



$4 \times 4 + 3 \times 3 = c \times c$ のことだから
 $16 + 9 = c \times c$
 $25 = c \times c$

こたえはひだりのほう

cは何でしょう？

自然は、いったいどのようにできているのだろうか？

この、途方もない疑問に、ピタゴラスは、ある「予想」をしました。

「自然は、数や数関係によって説明される」

もしそうならば、数というものが自然の本当の姿なのでは・・・？

これを高級に、「数は実在の本質である」と言いますが、

難しいことばですね。

簡潔に「万物は数である」が、ピタゴラスの言葉として有名です。

このような考え方を、「ピタゴラスの指針(ししん)」といいます。

ピタゴラスとその仲間たちは、数のことはもちろん、

数と図形、数と音楽などに美しい関係を、たくさん発見しました。

また、真理を究明すること、そして発見することが、

人間の魂を向上させていく、と信じていました。

ピタゴラスたちが、いちばん知りたかったことは、魂や神のことだったのです。

究明した真理に、神を感じるというのは、まさに「宗教」ですね。

普通は、算数や数学を勉強していて、「神」や「魂」などは出て来ませんよね。

歴史上では、魂や神のことを知るための途中で発見された真理を、

私たちは、(多分)神を感じることなく、学んでいます。でも、

勉強中たまに「分かった！」などと、うれしく感じたことは、ありませんか？

ピタゴラスなら、「それが神を感じたことだ」と言うかもね。

はたして、彼らは「神」に辿り着けたのでしょうか？